

令和元年度 在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

令和2年3月5日現在

令和元年度第3回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会

(ア) 地域医療・介護資源の把握

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(エ) 在宅医療・介護関係者の情報共有の支援

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(カ) 医療・介護関係者の研修会

(キ) 地域住民への普及啓発

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村との連携

(ア)地域の医療・介護の資源の把握

地域の医療機関、介護事業者等の住所、機能等を把握し、これまでに自治体等が把握している情報とリスト又はマップを作成、活用する

- ・在宅医療と介護のサービスマップの普及【市民向け】 3,000部配布
- ・介護保険情報誌ハードページの普及【市民向け】 3,000部配布
- ・高齢者の地域包括ケアのためのミニ知識2019 900部配布
- ・在宅医療・介護連携推進事業のホームページの随時更新

・クリニック・訪看・特養等における対応可能なケアの情報集約部会の開催
(令和元年11月12日)

概要・ポイント

つくば市の医療と介護の既存情報の評価と必要な情報の整理と集約化について協議・検討を行った。

連携タイムやサービスマップ等の既存情報の見直しを行うと共に、病院の専門職窓口一覧や特別養護老人ホームと訪問看護ステーションの特徴を新たに調査し、専門向けの情報誌(ミニ知識)に追加できるようにした。

- ・つくば市内病院のケアマネ等専門職窓口一覧の調査※資料3
- ・医師と連携しやすい時間等を掲載した連携タイムの調査※資料4
- ・訪問看護ステーションの特徴の調査(集計中)
- ・特別養護老人の特徴の調査(集計中)



(イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

地域の医療・介護関係者が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状の把握と課題の抽出、対応策等の検討を行う。

・在宅医療・介護連携推進協議会にて課題の協議・検討

第1回 在宅医療・介護連携推進協議会	第2回 在宅医療・介護連携推進協議会	第3回 在宅医療・介護連携推進協議会
(1)平成30年度 在宅医療・介護連携推進事業報告について (2)令和元年度 在宅医療・介護連携推進事業計画について	(1)つくば市在宅医療・介護連携推進協議会実務部会について (2)医療と介護のありたい姿と本年度の事業計画について	(1)医療と介護のありたい姿のロードマップと指標について (2)令和元年度 つくば市在宅医療・介護連携推進事業報告 (3)令和2年度 つくば市在宅医療・介護連携推進事業計画(案)
令和元年6月20日	令和元年11月18日	令和2年3月11日予定

・課題検討の場として実務部会を設置 → 詳しくは各項目で説明

(キ)在宅医療介護に関する市民啓発講座検討部会

(カ)ケアマネ・地域リーダー研修の企画・実施・評価部会

(ウ)(エ) 多職種間における事業所等連携マナー・エチケットの作成検討部会

(ア)クリニック・訪看・特養等における対応可能なケアの情報集約部会

(ウ)(エ) お薬手帳・連携ノート等在宅生活時における情報連携ツールの在り方に関する検討部会

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

・医療・介護関係者の参画する会議

- 1 つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議(3回開催/年)
- 2 圏域別ケア会議＋各圏域ケアマネジャーの意見交換会(毎月開催)

令和元年度 圏域別ケア会議参加者

圏域	通知送付			参加機関			参加人数		職種	医師	研修医	歯科医師	歯科衛生士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	管理栄養士	機能訓練指導員	鍼灸師等	看護師	薬剤師	退院調整看護師	医療S W	精神保健福祉士	介護従事者	介護支援専門員	生活相談員	支援相談員	在支相談員	福祉用具専門相談員	民生委員	生活保護C W	ボランティア	その他
	医療	介護	合計	医療	介護	合計	参加者	合計																										
合計	332	1299	1631	116	357	473	627	652	17	2	6	1	48	17	6	3	1	14	38	21	6	11	4	13	347	27	22	9	14	10	1	0	14	

令和2年2月29日現在

概要・ポイント

<地域ケア会議の目的>

地域ケア会議は、個別課題解決、ネットワーク構築、地域課題抽出、資源づくり・資源開発及び政策形成の5つの機能を果たすことを目的に開催している。

<(イ)における課題抽出と解決方法>

圏域別ケア会議の開催を重ね、医療保険や介護保険以外にリハビリテーション専門職種の介入がないという制度上の課題が抽出されたことを受け、令和元年度、つくば市地域リハビリテーション活動支援事業の事業化につながった。

3 自立支援型個別ケア会議(毎月開催)

要支援者等の生活行為の課題等について、医療・介護の専門職種からの助言によるケアマネジメント支援から、自立支援、重度化予防及び生活の質の向上につなげることを目的に開催

(ウ)切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、切れ目なく在宅医療と介護が一体的に提供される体制の構築を目指した取り組みを行う。

(エ)医療・介護関係者の情報共有の支援

情報共有の手順等を含めた情報共有ツールを整備し、地域の医療・介護関係者肝の情報共有の支援を行う。



・令和元年度第1回多職種連携のための意見交換会（令和元年8月23日開催）

講演「つながりづくりと、その先」講師 筑波大学附属病院 医学医療系 リハビリテーション科 上野 友之 氏

グループワーク「連携のために明日から専門職(自分)そして、多職種でできること」

(概要・ポイント) 講演では「医療と介護と福祉でつながる会」の立ち上げ、取組みについてご紹介。地域共生社会を目指していくためには各々が「自分の役割」を考え、具体的な行動を起こすことの重要性について提示をいただきました。グループワークでは「実際に取り組んだこと、取り組むことができなかったこと」をグループで共有。事例から取り組めたことの促進要因、取り組めなかった阻害要因について協議。また、「連携のために明日から専門職(自分)そして、多職種でできること」をテーマに「明日から」「半年後」誰がやるのか「医療職」「介護職」「行政(その他)」について、協議、グループ発表。先生からは、3人集まるだけでも「多職種」であり、敷居を低くして小さなことから自分たちで始めることが大切であること、また顔の見える関係の一步先に何をお願いするかが大切であると提示いただきました。

・ 医師：6名	・ 介護支援専門員：10名	・ 作業療法士：3名	・ 社会福祉士：12名	・ 医療ソーシャルワーカー：2名
・ 理学療法士：6名	・ 歯科医師：4名	・ 福祉用具専門相談員：2名	・ 歯科衛生士：6名	・ 訪問介護員：1名
・ 介護福祉士：3名	・ 事務職：6名	・ 薬剤師：6名	・ その他：6名	・ 主任介護支援専門員：16名
・ 介護職：1名	・ 看護師：3名	・ 保健師：3名		

参加者合計：96名

・令和元年度第2回多職種連携のための意見交換会（令和2年3月12日予定）

・多職種間における事業所等連携マナー・エチケットの作成検討部会（令和元年10月28日、12月19日、2年2月14日）

・お薬手帳・連携ノート等在宅生活時における情報連携ツールの在り方に関する検討部会（令和2年1月14日）

多職種間における事業所等連携マナー・エチケットの作成検討部会

- ・在宅医療・介護における 本人・家族のための多職種連携で気をつけたい10ポイント (エチケット)と退院前情報共有チェックリストを作成しました。 ※資料2

①令和元年10月28日	つくば市における連携の課題について、実務部会でグループワークを実施。他市を参考につくば市のエチケットに向けた協議を退院調整看護師とヘルパーの代表にも入っていただき開始した。
②令和元年12月19日	1回目の課題と協議も基に、つくば市のエチケットと、退院前カンファレンスシート(案)を作成。
③令和2年2月14日	2回目の内容を各種別団体等で協議いただいた上で再度内容を検討。カンファレンスが本人と家族の意向と在宅側が知りたい情報を確認できるように情報共有チェックリストを作成した。

お薬手帳・連携ノート等在宅生活時における情報連携ツールの在り方に関する検討部会

- ・お薬手帳の活用を啓発するチラシとポスターの作成 ※資料1

- ・平成30年度推進協議会等において、緊急時のお薬手帳の有効性が提示される。
- ・つくば薬剤師会と協議を重ね、おくすり手帳活用のための啓発チラシ、ポスターを作成。市内薬局窓口にてチラシの配布、ポスター掲示いただくことで合意。チラシ・ポスターについては2月末より市内薬局90箇所へ送付。

令和元年1月14日 平時からの情報連携ツールの在り方に関して協議。ICT活用は将来的には広く普及すると考えられるが、現時点では平時の連携も含めてお薬手帳が広まっていることを踏まえれば、その活用が直近では有効ではないかなどの意見あり。



(オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援

地域の在宅医療と介護の連携を支援する相談窓口の運営を行い、地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの在宅医療、介護サービスに関する事項の相談の受付を行う。

また、必要に応じて、退院の際の地域医療関係者と介護関係者の連携の調整や、利用者・患者または家族の要望を踏まえた、地域の医療機関・介護関係者相互の紹介を行う。

・各地域包括支援センターにおいて、地域の医療・介護関係者からの在宅医療と介護の連携に関する相談の受付、連携調整、情報提供等を実施

【令和元年度(H31年4月～R2年1月)相談実績 延件数】

つくば市地域包括支援センター	1,666
筑波地域包括支援センター	1,485
大穂豊里地域包括支援センター	836
谷田部西地域包括支援センター	1,061
荃崎地域包括支援センター	2,005

・本年度は大穂豊里・谷田部西地区に地域包括支援センターを設置。地域住民にとっても近い相談場所、専門職からの相談・対応もより連携強化できる体制を整備

4月からは桜水会が筑波病院敷地内に桜地域包括支援センターを設置

・地域包括支援センター在宅介護支援センター一定例会での情報共有

(カ) 医療・介護関係者の研修

地域の医療・介護関係者の連携を実現するために他職種でのグループワーク等の研修を行う。また、必要に応じて地域の医療関係者に介護に関する研修会の開催、介護関係者に医療に関する研修会の開催等の研修を行う。

・ケアマネジャー向け研修会(令和元年11月26日開催)

概要・ポイント

講演 「看取り体験を語り合おう！聞いてみよう！」

～人生の最期に向き合う専門職として、利用者と家族に悔いが残らない支援のために～

① 居宅介護支援事業所、施設から看取りの体験事例の提示

② グループワーク 看取りの場面でうまくいったこと、困ったことの共有

講師 筑波大学附属病院 患者相談センター 馬場 玲子 氏

参加者 ケアマネジャー 44名



・地域リーダー研修会の開催(令和2年2月23日開催)

概要・ポイント

内容 「アドバンス・ケア・プランニング人生会議(実践編)～もしバナカードとロールプレイ～」

講師 せせらぎ在宅クリニック 清水 亨 氏

参加者 医療・福祉関係に関わる多職種: 20名

前半はグループでもしバナカードを実践。もしバナカードを知らない参加者が多数でしたが、人生会議を気軽に取り組む一つのツールとして有効であるとの感想が挙がりました。後半は3人1組で、延命治療を実施するか否かを必ず決定するロールプレイを実施。意思決定支援の難しさを体感することができました。



(キ)地域住民への普及啓発

在宅医療や介護サービスに関する講演会開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の理解を促進する

・令和元年度在宅医療介護啓発講座(市内6圏域開催)

概要・ポイント

市民が、在宅療養を選択肢のひとつとして考えることができるよう、医師・ケアマネジャーを講師とし、それぞれの立場から在宅医療と在宅介護の基本的な内容について講義いただきました。参加者のアンケートでは、「日頃から知りたいと思っていた情報を(特に在宅医療)について丁寧に説明いただいたことに感謝します。」「人生の最終を考えるキッカケになりました。」「困った折どこに連絡するか分かった。」「今までつくば市の在宅医療の情報が少なかったので大変参考になりました。」等の声をいただきました。



地区	場所	講師(医師)	講師(CM)	日程	時間	参加者
谷田部	市民ホールやたべ 大会議室1	小田内科クリニック 有田圭介先生	ケアパートナーつくば 野澤亮子CM	9/22(日)	13:30~15:30	28名
荃崎	荃崎交流センター 研修室	成島クリニック 成島浄先生	介護保険センター くきの里 鈴木啓之CM	11/17(日)	9:30~11:30	39名
桜	桜交流センター 2F ホール	みなのかクリニック内科呼吸器科 陶山時彦先生	アイシーネット介護センター 沼田久江CM	12/8(日)	9:30~11:30	24名
豊里	豊里交流センター 2F 研修室	飯岡医院 飯岡幸夫先生	美健荘 居宅介護支援事業所 皆見聡恵CM	12/15(日)	9:30~11:30	13名
筑波	市民ホールつくばね 2F 会議室	飯田医院 飯田章太郎先生	居宅介護支援事業所なかよし 岡野浩明CM	1/18(土)	13:30~15:30	10名
大穂	大穂交流センター 研修室	柴原医院 柴原健先生	居宅介護支援事業所なでしこ 飯田真弓CM	2/9(日) ※大穂会場は台風のため10月13日から日程変更	13:30~15:30	29名

(キ)地域住民への普及啓発

在宅医療や介護サービスに関する講演会開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の理解を促進する

- ・在宅医療と介護のサービスマップの普及【再掲】
- ・ハートページの普及【再掲】
- ・つくば市救急医療情報便ツクツク見守りたいの普及
- ・**健康フォーラムつくばの開催**(令和2年2月8日 イーアスホール 参加者78名)
講演「人生会議」をはじめよう～「もしも」の時に備えて～
講師 筑波メディカルセンター病院 廣瀬由美先生 木野美和子先生 田中久美先生



概要・ポイント

廣瀬医師の講義・進行のもと参加者が個人ワークを通して考える市民参加型のフォーラムでした。ワーク中は木野先生、田中先生が参加者からの質問に対応し、ワークをサポートしていただきました。参加者からは「考えるきっかけになってよかった」、「家族にも伝えたい」というお声が聞かれました。

・つくば市職員による在宅医療啓発講座

高野台シルバーレインボークラブ (24名) 令和元年7月18日

ミニサロン赤塚東山 オリーブの木(18名) 令和元年7月22日

在宅医療と在宅介護

住み慣れた家で人生の最期まで・・・



(ク)在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

同一の二次医療圏内にある市町村や隣接する市町村等が連携して、広域連携が必応な事項について協議する。

- ・武蔵野市副市長と健康福祉部との意見交換会(令和元年5月31日)
- ・広島県尾道市、呉市視察(令和元年8月22-23日)
- ・土浦市社会福祉協議会意見交換会(令和元年9月18日)
- ・常総市(きぬ医師会病院、水海道さくら病院)視察(令和元年10月31日)
- ・令和元年度度市町村介護予防事業担当者研修会及び在宅医療・介護連携推進事業担当者研修会並びに情報交換会(令和元年11月11日)
- ・結城市(特養青嵐荘)視察(令和元年12月26日)
- ・常総市(水海道厚生病院視察)(令和2年1月27日)
- ・近隣市町村勉強会(令和2年2月19日)

上記以外にも、市外医療・関係機関に出向きお話しをお聞きする機会をいただきました。

令和元年度 事業報告は以上です。